

MONEY &
DISEQUILIBRIUM
DYNAMICS
貨幣と不均衡動学

夏木康志

目次

貨幣と不均衡動学	1
奥付	
奥付	5

貨幣と不均衡動学

私の人生に影響を与えた一冊を挙げるとすれば、岩井克人先生の『不均衡動学』です。先生のゼミナールに一年参加して、英語版と日本語版両方手に入れて直接サインをいただきました。

『不均衡動学』では貨幣経済の本質は不均衡にあると説かれています。従来の経済学者が一般均衡、つまり需要と供給の均衡という概念を重視していたのに対して、本当は不均衡が常態であると分析されています。

『不均衡動学』の先駆者である二人。ヴィクセルとケインズ。それにもう一人の先駆者であるマルサス。ヴィクセルは不均衡累積過程を分析し、ケインズは有効需要の原理を弟子のカーンと共に発見しています。そして、有効需要の原理の先駆者としてのマルサス。

日本人の経済学者が英語で書いた著作で『不均衡動学』より厳密で緻密な分析の書物を読んだことはないです。事実、『不均衡動学』はノーベル賞を受賞したアローの『社会的選択と個人的評価』およびデブリーの『価値の理論』と同じシリーズとして出版されています。

本書は、貨幣経済に内在する本質的な不安定性を分析した不朽の名著だと思います。

マクロ経済学を分析する際に、ケインズ『一般理論』よりも以前、つまりヴィクセル『利子と物価』について研究を深める必要があるという主張は、21世紀でも当てはまるでしょう。現代においてもウッドフォード教授が『利子と物価』を書かれているように。

『貨幣と信用』とサブタイトルのついたヴィクセル『国民経済学講義』も拝読しましたが、ヴィクセルが創始したとされる自然利子率と市場利子率の分析は、現代においても自然失業率などの分析に活かされています。

人びとは『不均衡動学』やケインズを忘れかけている時期もありました。でも、危機は忘れた頃にやってきます。経済危機のショックを経て、『不均衡動学』やケインズの主張が読み返されている。それが今です。

実物的景気循環論 (RBC) を経て、動学的一般均衡モデル (DSGE) が流行して、新ケインズ派と新古典派の分析の距離は両者が邂逅したとされる程に近づきました。そんな今だからこそ、不均衡動学モデルを動学的一般均衡理論のもとで再考する必要があると思います。

時間と空間を超越する存在である貨幣。一方で有限性に制約される人間。貨幣と不均衡に対する考察が、人間、そして人間の共同体である社会が生み出した言語と法の考察にまで応用が出来るという先生の主張。

社会科学、そして人間の学としての人文科学を射程に収めていらっしゃる先生の思考を「情報」という一つのコア概念で分析・統合できればという願いを私は一人の研究者として持っています。貨幣と不均衡動学、そしてその背景にある情報の非対称性について分析する。『不均衡動学』の査読者が情報の経済学でノーベル賞を受賞したアカロフ教授であり、そのアカロフ教授が論文で最も高い評価をしている『不均衡動学』を読み返すことで、人間社会の本質にせまる分析が出来るのではないか、そんな夢を私は持っています。

奥付

奥付

貨幣と不均衡動学

<https://puboo.jp/book/47319>

著者：夏木康志

著者プロフィール：<https://puboo.jp/users/ynatsuki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<https://puboo.jp/book/47319>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/47319>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパプー (<https://puboo.jp/>)

運営会社：株式会社 paperboy&co.

貨幣と不均衡動学

著 夏木康志

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
